INAX

洗面器

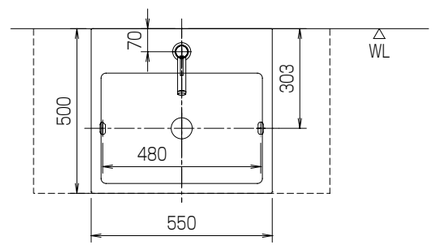
(G)L-536FC、(G)L-546FC
(G)L-536FCRS、(G)L-546FCRS
(G)L-536ANC、(G)L-546ANC
(G)L-536N、(G)L-546N

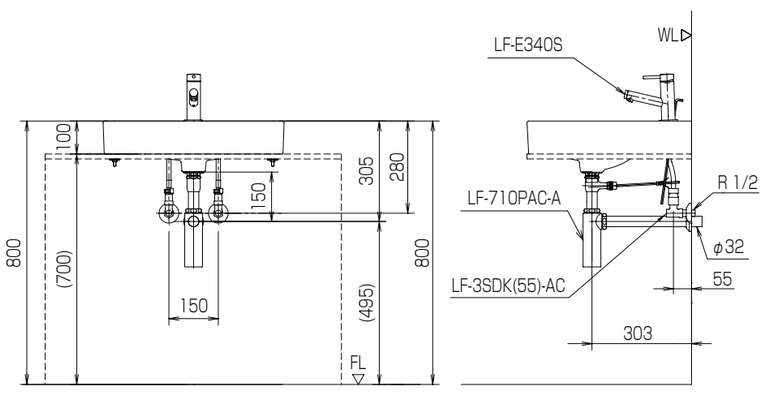
商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書をお客さまにお渡しください。

●標準施工図

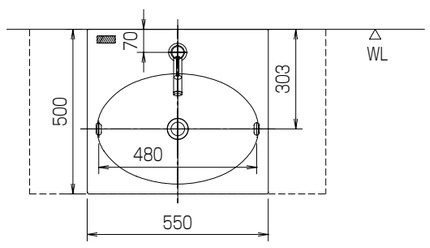
※水栓金具、排水金具、バックハンガー、AYボルト等は別途手配になります。
※カウンターは現場調達

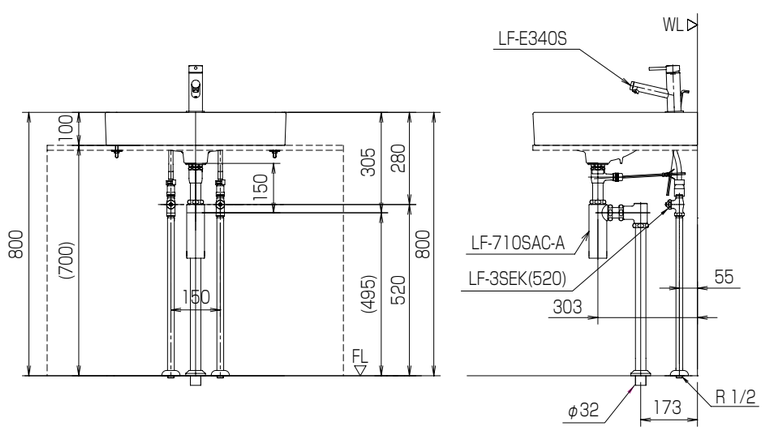
【(G)L-536FC】
壁付施工例（壁給水、壁排水の場合）





【(G)L-546FC】
壁付施工例（床給水、床排水の場合）





●安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、取扱説明書にそってお客さまに使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管いただくように依頼してください。

用語および記号の説明

警告 …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」

注意 …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ …… 「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

分解禁止 …… 「分解してはいけません！」

指示実行 …… 「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

禁止 …… 「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

⚠警告

洗面器の固定は確実に行ってください。
※落下・転倒などによってケガをする恐れがあります。（指示実行）

⚠注意

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理･改造は行わないでください。
※破損しケガをすることがあります。（分解禁止）

水道水以外に接続しないでください。
※内部の腐食により破損や漏れ、故障の原因となります。（禁止）

陶器は割れものです。
●施工前に輸送中の破損がないことを確認してください。
●施工後に施工段階での破損がないことを確認してください。
※破損部でケガをしたり、漏水により家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（指示実行）

給排水管の接続は確実に行ってください。
※漏水により家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（指示実行）

止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。
※漏水により家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（指示実行）

陶器に対するねじは締めすぎないようにしてください。
※陶器が割れてケガをする恐れがあります。（禁止）

湯水を逆に配管しないでください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。（禁止）

お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。
※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（指示実行）

給水･給湯管の差し直しをする際は、必ず湯側、水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。
※湯･水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（指示実行）

衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。
※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。（禁止）

給湯器の給湯温度設定は85℃以下でご使用ください。
※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（指示実行）

陶器に熱湯を注がないでください。
※陶器が破損してケガをしたり、水漏れのため家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（禁止）

陶器に硬いものを落とさないでください。
※陶器が破損してケガをしたり、水漏れのため家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。（禁止）

陶器にひびが入ったり、割れた場合、破損部には素手で触らないでください。
※破損部でケガをする恐れがあります。（禁止）

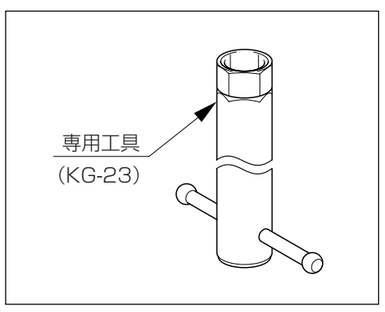
陶器にひびが入ったままで使用しないでください。
※陶器が割れてケガをする恐れがあります。（禁止）

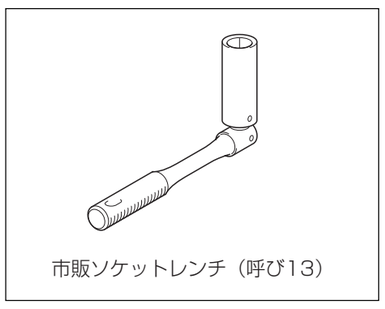
●施工前の確認・注意

※現場調達のカウンターは、水平に施工してください。

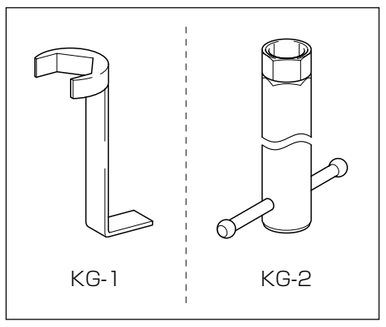
(1) 取付けに必要な工具

●シングルレバー混合水栓の取付けには別売の専用工具KG-23（対辺13）もしくは、市販ソケットレンチ（対辺13）が必要です。





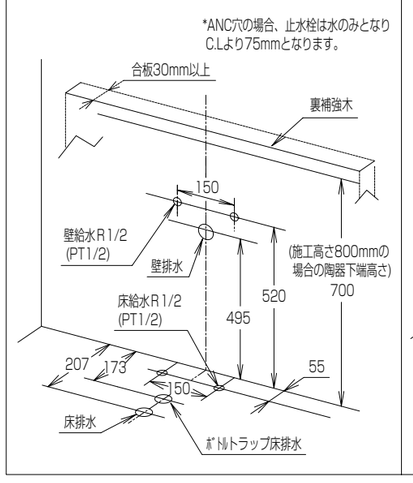
●単水栓の取付けには別売の専用工具KG-1もしくは、KG-2が必要です。



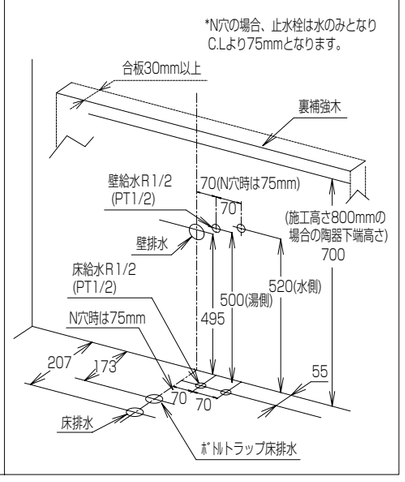
(2) 洗面器の給排水位置について

●洗面器用に、給排水管の立ち上げが必要です。給排水管の取出し位置は決まっていますので、必ず指定の位置に取出してください。
●取出し位置のずれは±10mm以内としてください。

【(G)L-536FC穴,ANC穴,(G)L-546FC穴,ANC穴の場合】



【(G)L-536FCRS穴,N穴,(G)L-546FCRS穴,N穴の場合】

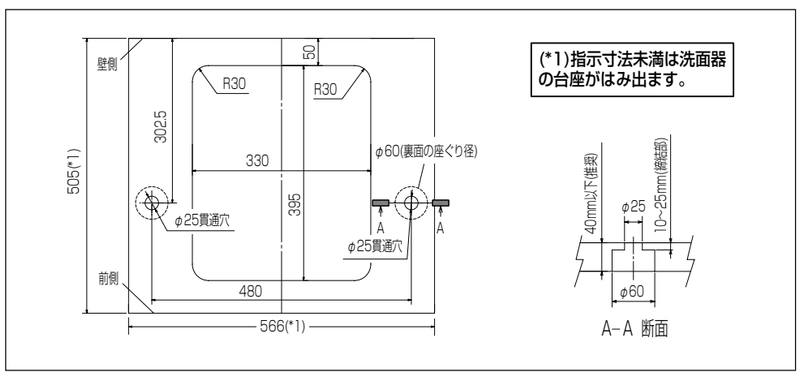


注意
●器具取付前に給水管、排水管内に異物が混入しないようにしてください。
●給水管にはプラグ（LF-7T）、排水管にはビニール袋等でカバーしてください。

(3) 補強木の位置について

キャビネットの取り付けには、背面壁に補強が必要です。現場調達カウンターの場合、市販ブラケットの木ネジ位地に、厚さ30mm以上の補強木をあらかじめ設けてください。（セット総重量は20Kg以上あります）

(4) カウンター開口と固定穴位置について



(5) 給水条件

水栓に同梱されている施工説明書を参照ください。

(6) 配管の注意

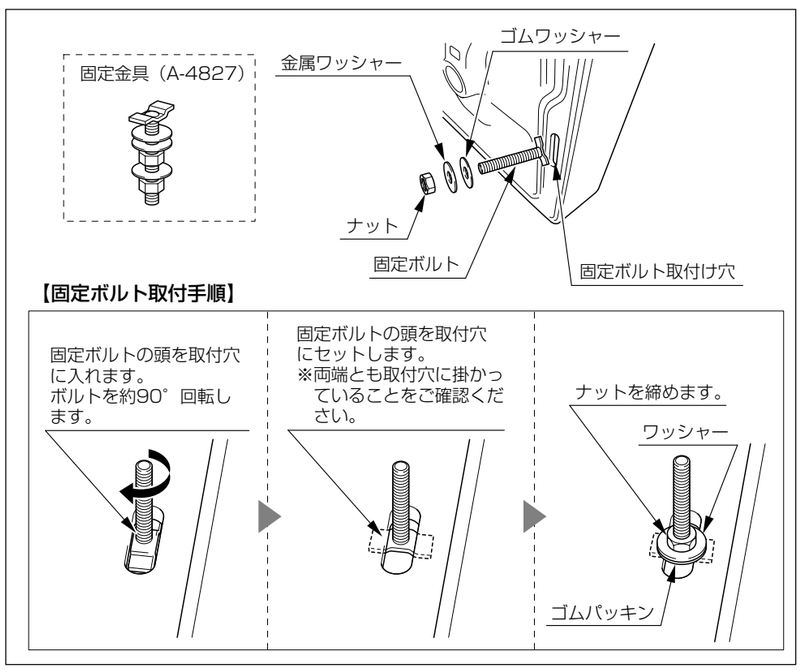
水栓に同梱されている施工説明書を参照ください。

●施工方法

1．洗面器の取付け

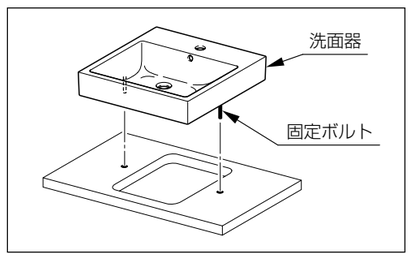
(1) 洗面器に固定金具（A-4827・別売）を取り付けます。
※養生シート等の上に洗面器を置き、ワッシャー・ナットで固定します。

注意
陶器を直接床に置かないでください。陶器にキズが付く恐れがあります。



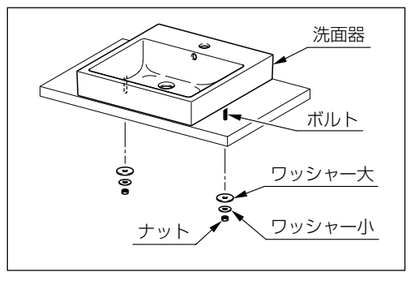
(2) 洗面器をカウンターにのせます。
※カウンターは別手配品です。

注意
カウンターに衝撃を与えるとカウンターが破損してケガをする恐れがあります。



(3) 洗面器のボルトをキャビネット内部からワッシャー大、ワッシャー小、ナットで固定します。

注意
陶器に対するねじは締めすぎないようにしてください。
※陶器が割れる恐れがあります。



株式会社INAX
●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センター商品相談窓口
ナビダイヤル TEL 0570-017173
受付時間　平日　「9:00～18:00」
土日・祝日　「10:00～18:00」対応
（夏期、年末年始の休みは除く）
※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などではご利用になれない場合がございます。
TEL 0562-31-0793　をご利用ください。

2．水栓金具の取付け

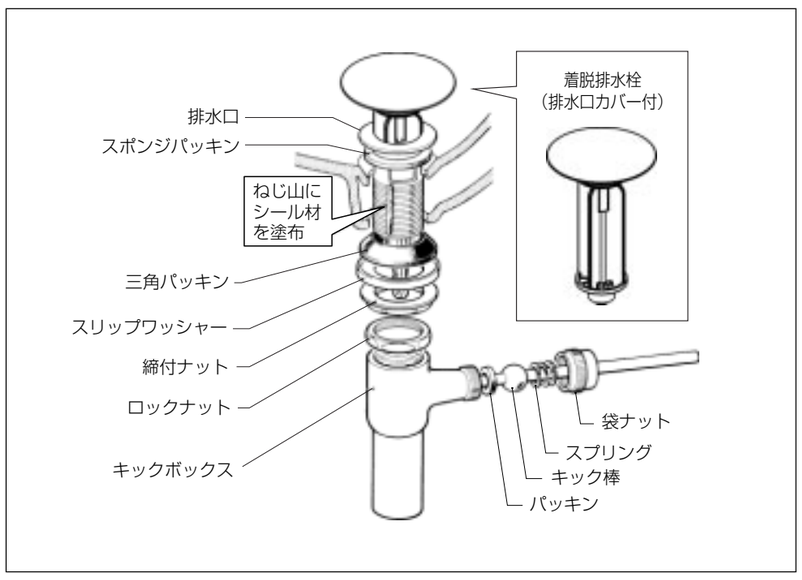
水栓に同梱されている施工説明書をご参照ください。

3．排水口金具の取付け

（1）排水口のツバ下パッキンには、スポンジパッキンが使用してあります。しかし、ネジ山をつたって漏水することが考えられますので、図のようにシールしてください。上部にスポンジパッキン、下部に三角パッキンをはめて締め付けてください。この際、締め過ぎにならないよう注意してください。
※排水金具が変形し漏水の原因になります。

（2）排水栓（排水口カバー付）が「閉」状態のときにキック棒が水平に差し込まれるまで、キックボックスをねじ込み、ロックナットでキックボックスをしっかりと固定してください。
※着脱排水栓（排水口カバー付）の場合は、上から排水口に差し込みます。

（3）キック棒の袋ナットを漏水しない程度に締め付けてください。この際、締め過ぎにならないよう注意してください。
※キック棒の動きが重くなります。



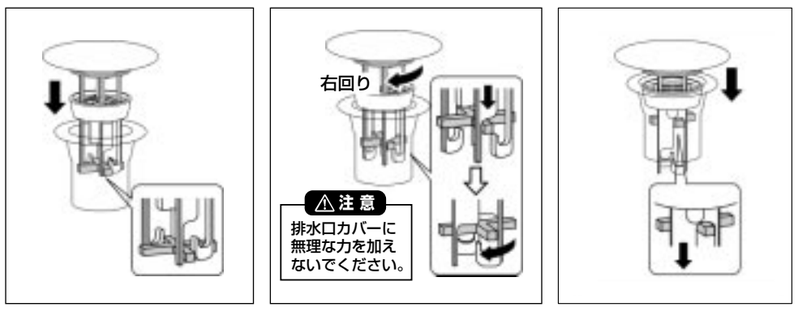
4．排水口カバーの取付け

※ポップアップ式または排水口カバーなしタイプの場合は不要です。

（1）排水口カバーの金具穴部を排水金具の十字の中へ挿入します。

（2）排水口カバーを右回りにゆっくりと回転させます。

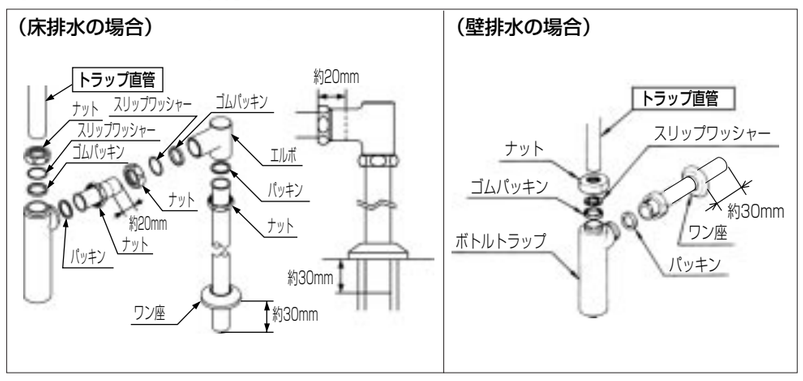
（3）排水口カバーを下に降ろして取付け完了です。



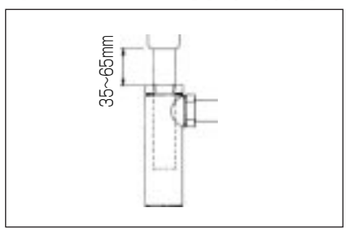
5．排水管の取付け

（1）ボトルトラップ排水管を仮組みし、建築側排水立上げ管への差込しろ（約30mm）を残して排水管を切断します。
※トラップ直管は、絶対に切らないでください。
※下図の寸法（ボトルトラップ封水深）が35～65mmになっていることを必ず確認してください。
※床排水の場合、エルボーとの差し込みしろは約20mm確保してください。

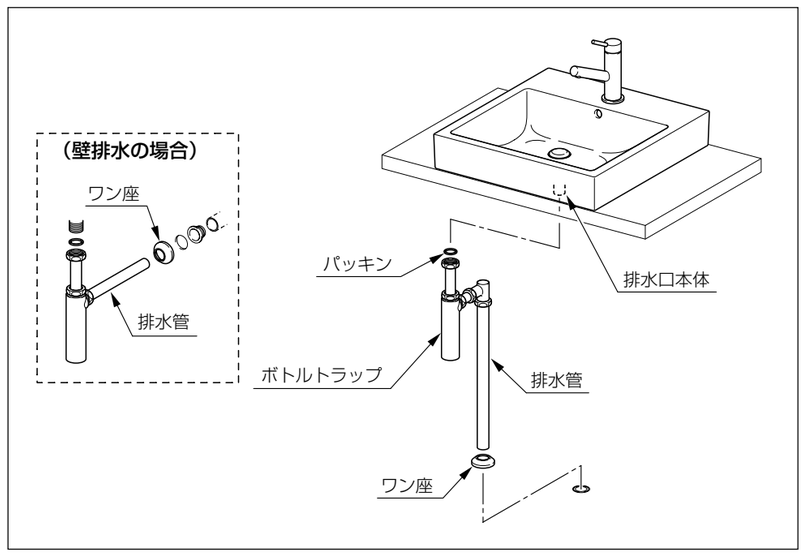
［ボトルトラップの取付け］



［ボトルトラップ封水深の確認］



（2）ワン座を取り付けた後、ボトルトラップ排水管を接続します。



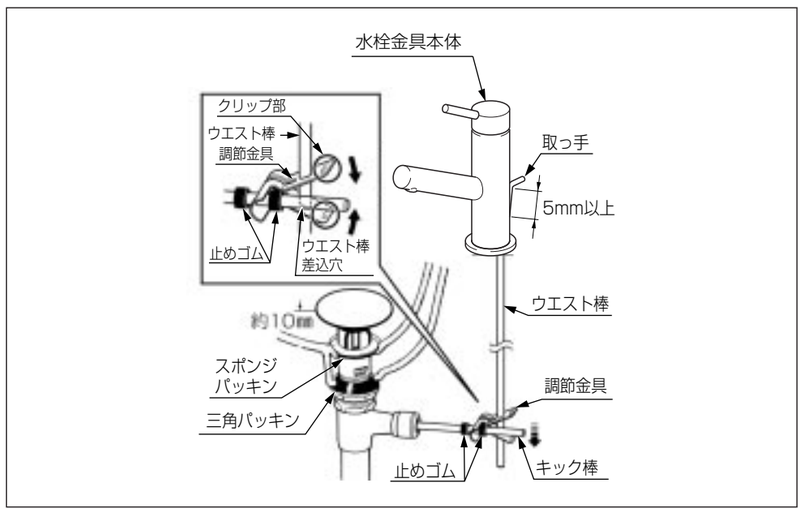
6．ウエスト棒の取付けおよび調節

（1）キック棒に止めゴムと調節金具を図のように組付けてください。
「（注）以下のクリップ部取付手順詳細参照」

（2）ウエスト棒を水栓金具本体に通し、さらに調節金具のクリップ部を摘みながらウエスト棒差込穴に通してください。

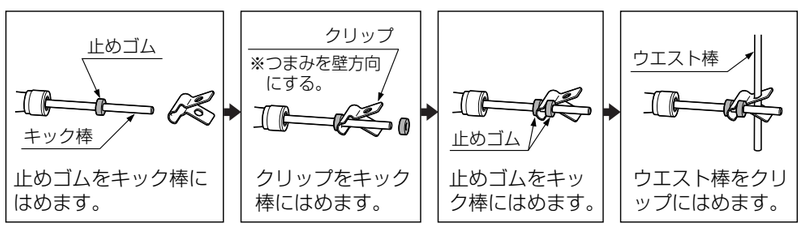
（3）排水栓の開閉（約10mm程度上下します。）が行えるように、調節金具のクリップ部を摘みながらウエスト棒の高さを調節してください。このとき、取っ手と水栓金具本体とがぶつからないように、5mm以上の隙間をあけてください。

（4）排水栓の開閉が円滑に行えることを確認したら、止めゴムで調節金具が動かないように挟んでください。
（止めゴムの間隔は10mm以内）

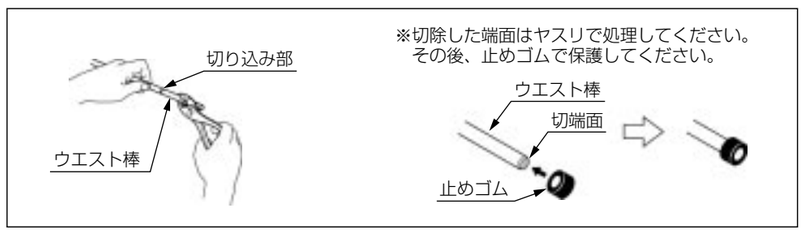


※調節金具に干渉しないように、水栓金具の給水ホースを取り回してください。破損して漏水する恐れがあります。
※止めゴムを付けない場合は、調節金具がキック棒より外れ正しく作動しない恐れがあります。

【クリップ部取付手順詳細】

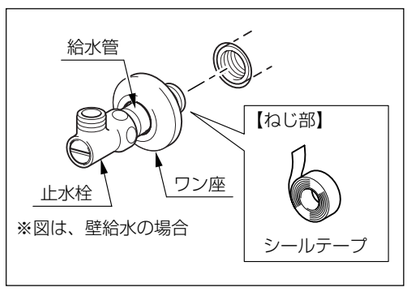


※ウエスト棒が長すぎて排水管等に干渉する場合は、下端にある切り込みより、プライヤー等を用いて切除してください。



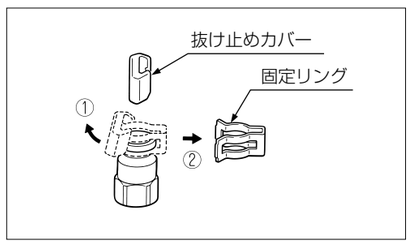
7．給水管、止水栓の取付け

建築側給水取り出しに止水栓、給水管、ワン座を取り付けます。
※ねじ部にはシールテープを巻き付けてください。

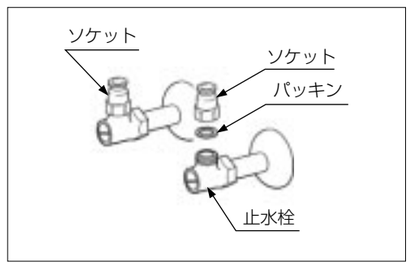


8．給水ホースの接続

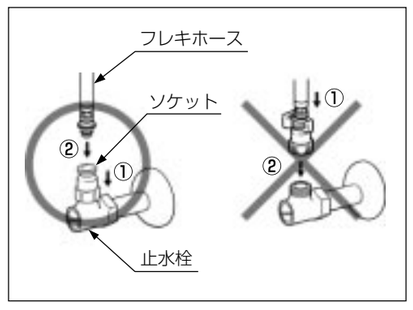
（1）抜け止めカバー、固定リングの順に取り外します。



（2）ソケットを止水栓に固定します。

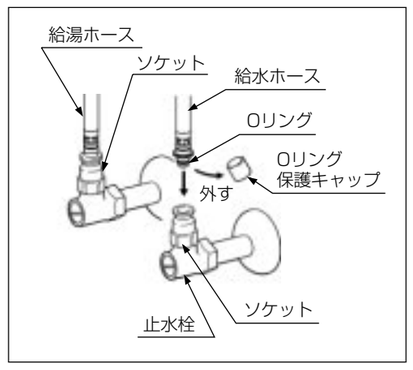


注 意
ソケットをフレキホースと先に接続してから、止水栓に固定することはおやめください。
ソケットやフレキホースに無理な力がかかる場合があり、破損、漏水の原因となります。

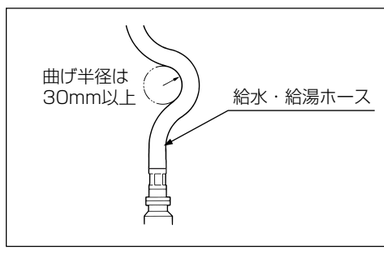


（3）給水・給湯ホースのOリング保護キャップを取り外し、ソケットに差し込みます。

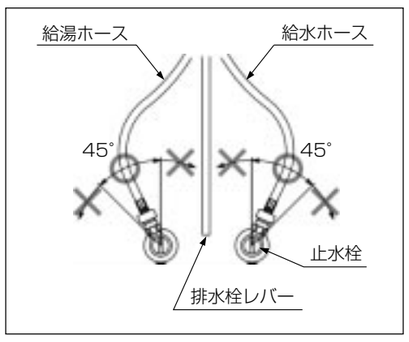
注 意
Oリングにキズをつけたり、ゴミかみをさせないように注意してください。
※漏水の原因になります。



注 意
給水・給湯ホースを曲げる場合は、曲げ半径を30mm以上確保してください。
※無理に曲げるとホースが損傷し、漏水の原因となります。

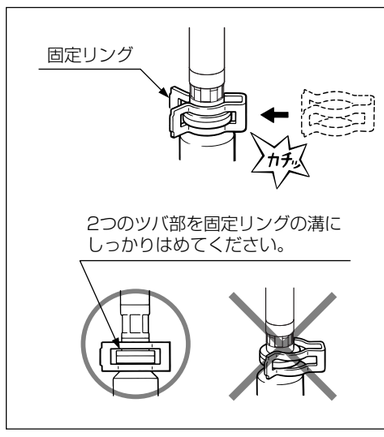


ポイント
給水、給湯の取出位地によっては、止水栓の向きを図のように45°以内で傾けて、給水・給湯ホースが無理に曲がらないように調節してください。
※内側に傾けると、排水栓レバーがホースと接触し、重くなる場合があります。



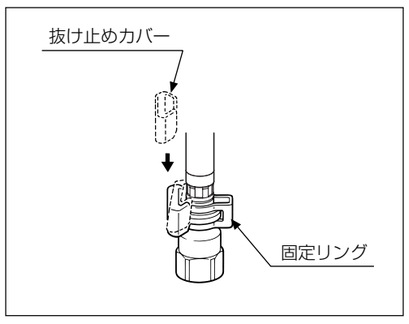
（4）固定リングを給水・給湯ホースとソケットの接続部（ツバ部）にはめ込みます。

注 意
●固定リングはしっかりとはめ込んでください。
※固定リングが外れると、漏水の原因となります。
●給水・給湯ホースを上に引き、確実に接続されていることを確認してください。
※漏水の原因となります。



（5）抜け止めカバーを固定リングにはめ込みます。

注 意
抜け止めカバーを必ずはめたままにしてください。
※直接固定リングに手を触れるとケガをする恐れがあります。

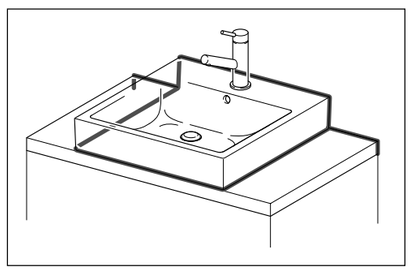


9．通水検査、水漏れ点検、整流口の清掃

水栓に同梱されている施工説明書をご参照ください。

10．カウンターと陶器周囲のシリコンシール

カウンターの壁付け面と陶器とカウンターの接地面にシリコンシールします。



11．引渡前の確認

漏水検査を必ず行ってください。
※水栓に同梱されている施工説明書をご参照ください。